

2019年度町田市教育委員会

第1回臨時会会議録

- 1、開催日 2019年8月19日
- 2、開催場所 町田市庁舎三階 第一、二、三会議室
- 3、出席者
- |       |         |
|-------|---------|
| 教 育 長 | 坂 本 修 一 |
| 委 員   | 後 藤 良 秀 |
| 委 員   | 森 山 賢 一 |
| 委 員   | 八 並 清 子 |
| 委 員   | 坂 上 圭 子 |
- 4、署名委員
- 教育長  
委 員
- 5、出席事務局職員
- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 学校教育部長                  | 北 澤 英 明 |
| 生涯学習部長                  | 中 村 哲 也 |
| 教育総務課長                  | 田 中 隆 志 |
| 教育総務課担当課長               | 是 安 智 彦 |
| 教育総務課担当課長<br>(学校運営支援担当) | 谷 勇 児   |
| 施設課長                    | 浅 沼 猛 夫 |
| 施設課学校用務担当課長             | 小 宮 寛 幸 |
| 学務課担当課長                 | 中 溝 智 章 |
| 保健給食課長                  | 有 田 宏 治 |
| 保健給食課担当課長               | 武 藤 正 道 |
| 指導室長                    | 金 木 圭 一 |
| (兼) 指導課長                |         |
| 指導課担当課長                 | 野 田 留 美 |
| 指導課統括指導主事               | 宇 野 賢 悟 |
| 教育センター所長                | 林 啓     |
| 教育センター統括指導主事            | 辻 和 夫   |

小学校教科用図書調査協議会会長	武藤雄丈
小学校教科用図書調査協議会副会長	清水淳
書記	並木薫
書記	鈴木崇之
書記	大河内和歌子
書記	中野亮介
書記	瓜田円
書記	高橋竜一
速記士	帯刀道代

(株式会社ゲンブリッジオフィス)

## 6、提出議案及び結果

議案第20号	2020年度使用教科用図書（小学校）の採択について	原案可決
議案第21号	2020年度使用教科用図書（中学校）の採択について	原案可決
議案第22号	2020年度使用教科用図書（特別支援学級）の採択について	原案可決

## 7、傍聴者数 42名

## 8、議事の概要

午前10時00分開会

○教育長 傍聴者の皆様に申し上げます。

開会に先立ちまして、事務局のほうからご案内がありましたように、傍聴者の皆様には、円滑な会議ができますように、ぜひともご協力をお願いいたします。また、町田市教育委員会傍聴人規則第5条に基づき、会議中の撮影・録音は禁止となっておりますので、これにつきましてもご理解いただきたいと思います。

それでは、ただいまから町田市教育委員会第1回臨時会を開会いたします。

本日の署名委員は森山委員です。

日程第1、議案審議事項に入ります。

議案第20号「2020年度使用教科用図書（小学校）の採択について」を審議いたします。

本件については、学校教育部長からご説明を申し上げます。

○**学校教育部長** 議案第 20 号「2020 年度使用教科用図書（小学校）の採択について」、ご説明申し上げます。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条及び第 14 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条の規定により、2020 年度使用の小学校の教科用図書を採択するものでございます。

町田市小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、教科用図書調査協議会を設置し、採択に必要な事項を調査・協議いたしました。2019 年度町田市教育委員会第 5 回定例会における本協議会からの報告を踏まえ、教科用図書について採択するものでございます。

1 枚おめくりください。2020 年度町田市立小学校使用教科用図書採択候補一覧でございます。国語は 4 社、書写は 5 社、社会は 3 社、地図は 2 社、算数は 6 社、理科は 5 社、生活は 7 社、おめくりいただきまして、音楽は 2 社、図画工作は 2 社、家庭は 2 社、保健は 5 社、道徳は 8 社、そして英語は 7 社候補がありますので、それぞれ採択するものでございます。

説明は以上となります。

○**教育長** 説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問などございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

それでは、質疑を終了いたしまして、採択に入りたいと思います。

まず、採択本の決定方法について、いかがいたしましょうか。

委員の皆様から特になければ、私からご提案を申し上げたいと思います。

採択の方法につきましては、基本的に 2018 年度及び 2017 年度の特別の教科「道徳」の教科書採択、2015 年度の中学校の教科書採択、それから 2014 年度の小学校の教科書採択の際にとった方法と同様に、無記名投票による方法をとりたいと思います。

既に先般、8 月 2 日の教育委員会第 5 回定例会の際に、教科用図書調査協議会からの報告を受けておりますので、その報告の内容も踏まえて、委員の皆様がそれぞれのお考え、ご意見を述べられた後、投票するという形にしたいと思います。

なお、これも前回と同様ですが、教育長と教育委員は合わせて 5 名でございますので、投票の結果、過半数、つまり、3 票以上を獲得すれば、その教科書が採択されることになります。また、いずれの教科書も投票数が過半数に至らなかった場合、例えば 2 対 2 対 1 のような場合は、2 票を獲得した教科書会社 2 社で決選投票を行うこととなります。また、

2票を獲得した教科書会社が1社だけで、あとは1票ずつの獲得が3社のような場合、つまり、2対1対1対1といったような場合には、まず2票を獲得した1社を第1候補としておいて、残りの1票獲得の3社で再投票して第2候補を決め、その後に第1候補と第2候補で決選投票をするというように、いずれにいたしましても、1社が過半数の3票を獲得するまで投票を繰り返すという方法でございます。

私からの提案は以上でございますが、この提案につきまして、ご質問その他何かございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

提案いたしました採択方法について、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、採択方法については無記名による投票方式に決定いたしました。

それでは、審議に入りたいと思いますが、審議に入る前に、後藤委員から発言の申し出がございますので、お伺いしたいと思います。後藤委員、お願いいたします。

○後藤委員 私から、このたびの採択対象となっています小学校教科用図書のうち、理科の教科用図書について、私が現職の教員の時代に、執筆と編集にかかわった図書がございます。教育委員になった現在では、当該の教科用図書には一切関与していませんが、このたびの採択に公正を期すという目的で、小学校理科の教科用図書の採択にかかわるべきではないと判断をしています。したがって、小学校理科の採択を行う際は席を外させていただきたいと考えているのですが、いかがでしょうか。

○教育長 ただいま後藤委員からお聞きのような申し出がございました。委員の皆様はご存じのことと思いますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中で、教育委員会の会議に関して規定されております第14条の第6項には、「教育委員会の教育長及び委員は、自己、配偶者若しくは三親等以内の親族の一身上に関する事件又は自己若しくはこれらの者の従事する業務に直接の利害関係のある事件については、その議事に参与することができない。ただし、教育委員会の同意があるときは、会議に出席し、発言することができる」と規定されております。教科用図書の執筆や編集などは自己の従事する業務であり、教科用図書採択の審議は直接の利害関係のある事件に該当すると思われま。

先ほどの後藤委員のお話では、現在は教科用図書の編集、執筆等には一切かかわっていないということですが、適切かつ公正な教科用図書の採択に万全を期すために、今回は後藤委員の申し出のとおり、小学校の理科の教科用図書の採択については、後藤委員に席を

外していただいた上で行いたいと思いますが、委員の皆様はこれにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○**教育長** ご異議なしと認め、小学校の理科の教科用図書採択については、後藤委員には席を外していただいで行うことといたします。

それでは、リストの順番に従いまして、国語の教科から審議いたします。

投票に先立ちまして、各委員の皆様からご意見をお願いしたいと思います。

○**後藤委員** 初めに、私は、このたびの小学校教科用図書の採択審査を行うに当たって、新学習指導要領の趣旨にのっとり、町田市の子どもたちの学力向上に資する教科書を選定しようと考えております。具体的には、学び方を工夫し、資質・能力を育成するという目的が大きく挙げられます。町田市教育委員会が学力向上を図る授業づくりとして示した8つの視点、1「見通しをもたせる導入」、2「発問の工夫」、3「価値ある対話の共有」、4「振り返りの設定」、5「構造的な板書とノート指導」、6「ICT機器の活用」、7「思考ツールの活用」、8「認め合う・学び合う集団の形成」、この点を重視いたしました。

これらの視点がいかに効果的に表現され、教師に学ばせやすく、子どもが学びやすい、そういった教科書であるかという点が重要だと思っております。当然、紙面構成、教科特性による表現、他教科との関連を中心にしたカリキュラムマネジメント、使用文字や写真、人権上の配慮なども調査いたしました。また、調査研究委員会の報告書、学校の教員の意見や市民の皆様の見聞も読みました。

さて、国語科ですが、町田市の学力調査結果に直接的に影響していると考えています。近年の結果は全国平均値程度ですが、東京都平均の中で見ますと、やはり数ポイント劣っています。この課題を解決するには、学び方をしっかりと身につけることのできる教科書が必要であると考えています。

この点から見ると、今回の教科書のうち、教育出版、光村図書出版が丁寧に構成していると判断いたしました。両社ともに教材の違いはあるものの、学び方として見通し、ノートなどへの考えの表出、対話、振り返り、思考ツール、これらがしっかり明示されて、子どもが主体的、そして協調的に取り組めるような教科書に構成されていると考えます。文字の認識のしやすさという点では、UDフォントという文字を使っている出版社があります。読み書き困難な子どもにはわかりやすく、読み間違いの防止、あるいは学力向上にも効果があると新聞にも紹介されていましたが、この点も確かにそう感じました。

私は以上です。

○森山委員 先ほど後藤委員のほうからもお話がございましたとおりで、私も重複になりますので、省略いたしますが、今回新しい学習指導要領をもとにした「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教科書、またICTを活用することによる教科書の有効性といえますか、そのあたりのところを中心に、加えて当然町田市の教育にふさわしい教科書はどうかという観点を明確にさせていただいております。

その中で国語につきましては、特に光村図書出版の教科書は、単元の後ろの学習の流れが、学習指導要領に示された学習過程に明確に基づいているという観点からいきますと、子どもたちが学びやすく、先生方の指導もしやすいのではないかと思います。加えて、文章教材の内容につきましては、森林あるいは環境問題なども取り上げられ、これが発達段階にある程度即した内容になっていて、非常に使いやすいと考えております。

加えまして、東京書籍の「新しい国語」ですが、この教科書につきましては、単元の終わりに「学習のてびき」が明確に示されています。これは児童も、指導者である教師もわかりやすい内容になっているのではないかと思います。また、教材文に関しましては、多様な文化と、先ほど光村図書出版のところでもお話ししましたけれども、森林あるいは防災などの内容が取り上げられて、現代的な国語の教科書としての教材の価値が非常に高いと思います。

もう1つは、教育出版の「ひろがる言葉 小学国語」でございます。この教科書につきましては、特に重点的に扱うという学習過程が明確に示されていることが非常に大きな特徴かと思えます。生活の中、あるいはほかの教科と国語との関係を配列して、その点での使いやすさということが非常に明確になっているかと思えます。

私からは以上です。

○八並委員 私も、後藤委員、森山委員がおっしゃったように、児童たちの学習の手だてがわかりやすいもの、また、手だてがあっても、その中で児童の自由な発想や発言につながるようなものを選びたいと考えました。また、町田市教育委員会が進めているICT環境の整備ということからも、デジタルコンテンツが充実しているような教科書を選びたいと考えました。

国語では、特に日本語の美しさということも意識できるもの、また、以前、小学校の図書指導員をしておりました経験から、児童の読書活動につながるような教科書であってほしいなと思いながら研究いたしました。

各社とも巻頭に、1年間で学ぶことや身につける力などがきちんと示されておりましたし、各学年の見開きに詩を置いてあるもの、いろいろな形で子どもたちが言葉や日本語に興味を持って学習できるような取り組みがされておりました。中でも、光村図書の「季節の言葉」などは、季節にかかわる日本語を取り上げており、子どもたちの感性を大変刺激するものの1つではないかと思っております。

私からは以上です。

**○坂上委員** 今の時代、スマホやパソコンに言葉を入力すれば簡単に調べることができる環境が当たり前になり、本や新聞などの紙面上の活字離れが著しく、子どもたちの国語力の低下が懸念されるのを見聞きすることが多くなりました。

小学校に入学し、子どもたちがしっかり国語教育を受けることは、生涯にわたり、人間形成の上で、とても大変重要なことです。国語力の中で、特に読解力、つまり、教科書に何が書かれているのかを読み解く力がなければ、他の全ての教科においても学力を定着させるのは難しいと思われまます。それがゆえに国語教育は重要な位置づけにあり、教科書を採択するに当たり、学力の基盤となる、読む、書く、聞く、そして話す力をしっかり学べる教科書であってほしいと思います。

また、毎日の持ち運びについての重さの問題において、全4社とも1年生から4年生は上下巻の分冊になっていますが、私は、5・6年生においては、1年間の授業の見通し、または振り返りができるよう、1冊になっているほうが好ましいと思い、東京書籍と光村図書出版で比較をしました。

両社とも取り上げている教材に関連した絵本や図書を紹介しているページがあり、学習の幅を広げるのに大変役立つと思われました。また、従来から共通に取り上げているなじみの深い教材で、低学年は「大きなかぶ」、「スイミー」、「モチモチの木」、高学年は「ごんぎつね」、「大造じいさんとガン」でレイアウト、字の大きさ、漢字、平仮名、片仮名の使い方、挿絵の大きさや注釈などという点で比較したところ、低学年は東京書籍、高学年は光村図書出版が読みやすかったです。

最後に、中学校に入ると本格的に学ぶ古典について、光村図書出版は「竹取物語」、「平家物語」、「徒然草」、「おくのほそ道」を、東京書籍は「枕草子」と、誰でもなじみのある、一度耳にすると大変記憶に残る有名な古典の作品を教材に使っているのも、現代文では味わえない古典独特の言い回しを学習するにはとてもよいと思われました。国語は、小学校だけではなく、この先、中学校、そして高校でも学ぶ教科なので、主体的にしっかりと学

び、しっかりとした国語力を身につけてほしいと思いました。

私からは以上です。

○教育長 それでは、私から意見を述べさせていただきます。

今回の小学校の教科書採択に当たっては、来年度から本格実施される新たな学習指導要領の中に示されている3つの観点、具体的に申し上げますと、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、1点目には「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」、2点目には「道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること」、3点目には「学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること」、この3点の実現を図り、子どもたちに生きる力を育むことを目指すものというふうに示されております。

私は、このことを踏まえた上で、町田市の子どもたちにとって最も適した教科書、町田市の学校に勤務する先生方にとっても使いやすい教科書、そういう意味では、教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるというふうによく言われますが、教科書が授業の台本のようにないもの、あるいは、教科書に載っている発問等が子どもたちの考えを1つの答えに誘導するようなものではないこと、全教科についてそのような観点で見させていただきました。

あと1つ、近年、子どもたちのランドセルや道具などの持ち物の重さが大変話題になっておまして、教科書展示会でいただいたご意見の中にも、教科書を選ぶ際には、なるべく軽いものというようなご要望もございましたが、教科書の中身と重さの両方のバランスをとるのはなかなか難しいと感じています。重たいランドセルの件については、学校に置いていってもいい教科書や教材、こういうのを置き勉というのでしょうか、このことについて、ぜひ配慮や工夫をしてくださるよう、各校の校長先生にお願いをしているところですので、ご理解をお願いしたいと思っています。

さて、国語の教科書についてでございますが、私は、国語という教科は、他の教科を初め、子どもたちの日常生活にも大きく影響を与える教科だと思いますので、子どもたちの

学習意欲や関心を引き出す工夫、あるいは人とのかかわりの中で、伝え合う力の育成につながるような構成、そういったようなことを中心に見させていただきました。

そのような観点で見たときに、今回は4社から教科書が作成されていますが、その中で、私は、教育出版と光村図書出版が、生徒にとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じます。この2社とも單元ごとに「学習のめあて」というのでしょうか、どのような力をつけたいかということが、他社と比較してわかりやすく明確に示されていて、使われている教材の文章構造も、子どもたちの発達段階に応じて、学年が上がるにつれて複雑になっています。特に光村図書出版が取り上げている教材、作品には、これは調査協議会からの報告にもございますが、高学年の児童の関心を引くような現代作家による新しい教材、作品が多く取り上げられていて、光村図書出版の教科書は重たいのですけれども、これは子どもたちの興味を引き、学習意欲を引き出すのにも有効だと思いました。

また、現在、町田市ではICT機器を活用した教育の推進に取り組んでおりまして、来年度には全ての小・中学校にプロジェクターや大型提示装置、タブレット端末等の機器が整備される予定ですが、光村図書出版の教科書にはデジタルコンテンツが大変多く掲載されておりまして、そのほとんどがオリジナルの動画でして、私が見てもとてもよくできていて、ICT機器を使った授業でも活用度が高いものと感じました。また、スマートフォンでも簡単に見ることができますので、家庭学習においても有効だと思いました。

私からは以上でございます。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴しましたので、投票に入ります。

事務局から投票用紙が配られますので、投票をお願いいたします。これが最も適していると思われるものを1つ選んで、投票用紙に丸をつけて、投票していただきたいと思えます。記入が終わった投票用紙は、事務局のほうで回収して集計をいたします。

それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 それでは、集計が終わりましたので、発表いたします。

東京書籍1票、光村図書出版4票です。

○教育長 ただいま報告がありましたとおり、投票の結果、光村図書出版が3票以上を獲得いたしましたので、2020年度使用教科用図書、小学校「国語」は、光村図書出版に決定いたします。

それでは続いて、書写の教科について審議いたします。

投票に先立ちまして、まず皆様のご意見を伺いたいと思います。

○後藤委員 書写では、やはり書字の力をいかに高めるか、そのスキルをしっかりと身につけることができるかという点が重要だと考えました。それぞれの教科書が水書用紙と違って、水筆みたいなもので、とめ、はね、はらいなどがきちんとできるような工夫も低学年からしっかりと取り入れたり、デジタルコンテンツの活用なども本当によく工夫していると思いました。その中でも比較した結果、私は、光村図書出版と日本文教出版が使いやすいというふうに判断をいたしました。

以上です。

○森山委員 私から、書写につきまして意見を述べたいと思います。

まず、先ほど後藤委員からもありましたけれども、水書用紙がついているのは、低学年からしっかりと書写の時間として非常に有効な手段であると思っています。その意味では、どの書写の教科書につきましても工夫がなされていると思います。

その中でも、これは教科用図書調査協議会からの報告にもございますが、まず東京書籍はデジタルコンテンツが動画で49本あると示されております。そのうち、道具についての説明が10本あると示されております。最近の児童の状況から考えますと、このような道具の説明も含めて、書写の教科書としての価値が高いと思います。加えまして、教育出版の「小学 書写」でございますが、デジタルコンテンツは動画で計46本示されています。これについてもやはり充実していると思います。加えまして、光村図書出版の「書写」についても、デジタルコンテンツが82本ということで、これも授業での活用が非常に高いと思います。そういう意味では、このような教科書については、特に今のようなデジタルコンテンツについての評価も非常に考慮すべきではないかと思ひまして、1つ例として出させていただきました。

以上です。

○八並委員 私からも書写について述べたいと思いますが、中でも、手本になっているもの、また薄墨手本などがあるものがないのではないかと思います。特に光村図書出版の「書写ブック」とか、あるいは毛筆を始める3年生のときには、始筆、終筆などの「たしかめようシール」などがついていて、こういうことが初めて毛筆を行う児童たちにとっても、興味や関心を引き、楽しみながら授業を受けることができるものの1つではないかと思いました。特に近年では、低学年など、筆圧が大変弱くなっているというようなお話を伺いますので、いろいろな教科書についていた水書用紙は大変重要なポイントの1つにな

るのではないかと考えました。

あと、デジタルコンテンツが充実していた教育出版などもよろしいのではないかと考えます。

私からは以上です。

**○坂上委員** 昨今では、大人もそうですが、筆記具を使用して文字を書く機会が、昔に比べて少なくなっているようで、今後はますますデジタル機器の進歩に伴い、自分で字を書かなくても済んでしまう場面がふえてくるのではないかと考えています。

そのような環境の中、授業で1文字1文字に思いを込め、集中し、心を落ちつかせ、文字と向き合うことは、大変大事な時間になると思います。また、メールなどが連絡手段の主になりつつある今の時代こそ、友達間、あるいは先生やお世話になった大人に対して、手紙やはがきを書くことの大切さ、また楽しさを改めて学んでほしいと思いました。

その点において、手紙の書き方、宛名、差出人の書き方が詳しく載っている日本文教出版と光村図書出版を私は選びました。また、両社とも、低学年には毛筆用の水書用紙がついており、毛筆の筆運びの練習が繰り返しできるのは大変よいと思います。そして筆の持ち方、書くときの姿勢が写真で詳しく説明されている点もよかったと思いました。書写の時間に文字の美しさ、文字を書くことの楽しさを子どもたちに学んでほしいと思います。

私からは以上です。

**○教育長** それでは、私の意見を述べさせていただきます。

書写については今回5社あるわけですが、いずれもさまざまに工夫されていて、内容的に大きな差異はないというような印象を持っておりますが、そのような中でも光村図書出版と日本文教出版の印刷の色合いというのでしょうか、大変見やすく感じました。鉛筆や筆の持ち方等の解説がとても丁寧で、学習の進め方から用具の片づけ方まで、カラー写真等を使ってわかりやすく書かれていると感じています。特に光村図書出版の教科書には、先ほど国語のところでも申し上げましたように、よくできたデジタルコンテンツが大変多く掲載されていて、ICT機器を使った授業の中でも活用度が高いものというふうに感じました。また、光村図書出版の4年生の教科書のはがきの書き方というところで使われている見本の宛先には「町田市上小山田町」の住所が書かれていまして、とても親しみを持ちました。

以上でございます。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

東京書籍 1 票、光村図書出版 3 票、日本文教出版 1 票です。

○教育長 ただいまの投票結果の発表のとおり、投票の結果は、光村図書出版が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「書写」は、光村図書出版に決定をいたします。

それでは続いて、社会の教科について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いしたいと思います。

○後藤委員 社会科の特性というのは、問題解決学習をどのように構成しているかということで、その教科書の特性としてあらわれていると思います。この点で見ますと、3 社ありますが、東京書籍は、単元の数時間のまとまりを問題解決の展開として行っており、最後にまとめるというパターンの構成になっている。それに比較して、教育出版、日本文教出版は、1 時間ごとの問題解決という展開をして、学びを連続させていく。1 時間が終わって、そこからまた問題を見出して、次へ展開していくというパターンになっているというふうに捉えました。

社会科の学習内容というのは、子どもたちにとって日常生活で余り意識化することがないようなことも多く、教科書で初めて問題として出会うということが多いのではないかと考えられます。そういった場合に、大きくりの社会的な事象から問題を見出して、ロングスパンで勉強していくというか、予想を立てていくのはやりづらいのではないかなというふうにも思いました。それよりも、1 時間ごとですけれども、事実を 1 つ 1 つ積み上げていきながら、帰納的ではありますが、そうやって学ぶほうが、子どもにとっては、次への知識や理解を深め、自分で問題を見出していくのではないかなと考えた次第です。

また、6 年生の「政治・国際理解」と「歴史」というのを関連づけて学べるように、合本しているほうが、子どもにとっては学びやすいのではないかなというふうにも考えた次第です。

さらに、3・4 年生の内容は、町田市とか東京都を対象に学ぶことが中心になりますが、副読本というものも供給されるわけですが、教科書の役割としては、町田市の近隣地域を扱っている内容のほうが、親しみがあったり、あるいは自分たちでそういう地域の見学を関連づけてたりする学びになるのではないかと考えました。

以上です。

○森山委員 私のほうから意見を述べさせていただきたいと思います。

社会科ですが、やはり問題解決的な学習というところに観点を置くということが、社会科の教科書を見る観点で非常に重要なところかと思えます。特に例えば学習の進め方の中で、問題解決的な学習の進め方が確認できるかどうか、あるいは社会的な見方・考え方を働かせるような問題解決的な学習というのがどのような形で進められるのが望ましいか、あるいは見通しを持って学習を進めて、その中で振り返りがある程度明確に示される教科書は何かというような観点から特に検討させていただきました。

いずれの教科書も問題解決的な学習について、例えば学習過程について「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」ということが明確に示されており、全体の単元を通して単元構成がわかりやすくなっていると私は見てとれました。そういう意味では、東京書籍の「新しい社会」、また教育出版の「小学社会」については、特にそういうところの学習過程に配慮した教科書ではないかと思えます。

もう1点は、小学校6年生の歴史の中で、町田市の鎌倉街道の内容が示されている教科書もございました。

分冊か分冊ではないかについては、恐らくいろいろ分かれるところかとも思いますが、そういう意味においても、分冊のよさ、分冊ではないよさというのは、各教科書会社で出版された教科書については、それぞれの特色が出ているのではないかと思いました。

以上、私の意見を述べさせていただきました。

○八並委員 私も3社見比べたときに、非常によく工夫をされているという印象がありましたが、その中でも、先ほど後藤委員がおっしゃいましたように、学習過程を単元ごとにまとめるのか、1時限ごとにまとめるのかということは、どのように考えればいいのかということを考えながら見ましたけれども、私自身は、単元ごとで大まかにつかむということがいいのではないかと考えました。

中でも、特に社会や理科などにおきましては、イラストやいろいろな資料を読み取るということも必要になってきますけれども、東京書籍、また教育出版の教科書は、非常によくまとめられているように思いました。

また、高学年の分冊か分冊でないほうがいいのかということに関しては、先ほど坂上委員から、高学年ならば1冊で1年を見通せるものもいいのではないかというご意見もありましたし、私もそのように感じることもあります。特に6年生のときに東京書籍が「政治・

国際理解」と「歴史」の2分冊であります。教育出版ではそれが1冊にまとめられています。1つにまとめて社会を見るということにおきましては、教育出版のように高学年で1冊にまとめられているというのは意義があるのではないかと考えました。

以上です。

**○坂上委員** 1・2年生までは生活科の中で学んできたことが、3年生から社会科としての授業が始まります。これは子どもたちがこれから先、社会の一員として生きていくために、たくさんの知識をつけていく準備をするのに大切なときでもあります。グローバル化、情報化が進展し、急速に変化する社会の中で、これからの日本は、今よりも高齢化、少子化、人口減少、また地球温暖化や災害などの環境問題を含め、過去に例を見ないさまざまな問題に向き合っていかなくてならないと思います。その中で自分がどう社会にかかわっていけるのかを主体的に考えられる力を子どもたちにはつけてほしいと思っています。

その点において、東京書籍は問題解決型学習の仕組みを取り入れ、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」が明示されており、大変わかりやすく構成されていると思います。私は、先ほど国語は、高学年は1冊のほうが良いと申し上げましたが、社会に関しましては、6年生の教科書が「歴史」と「政治・国際」の分冊になっているところに東京書籍の使いやすさがあると思いました。ただ、これは私の個人的な感想ですが、東京書籍の中で有名なアニメキャラクターを起用するのは余り賛成しないところではあるのですが、そのほかの資料や写真やイラストについてはとてもきれいで見やすく、レイアウトも大きさも適度でいいと思いました。

私からは以上です。

**○教育長** それでは、私の意見を述べさせていただきます。

社会については、各社それぞれに特徴や工夫があるわけですが、私は、子どもたちが、それぞれ自分が社会の中でどのように位置しているか、かかっているか、社会に関心を持つ、あるいは社会について考えるきっかけになってほしい、そういう観点から見させていただきました。

そういう観点の中で、導入段階での工夫ですとか、学習方法のポイント等をわかりやすく解説して提示しているのが東京書籍だと感じています。調査協議会の報告にもございましたが、学習過程の段階が「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」というふうに明示されていて、単元の構成がわかりやすく、「ひろげる」のところで発展的な内容も示されており、特に「まとめる」のところでは思考力、判断力、表現力を重視していて、子

どもたちに主体的に自分の意見を文章で書かせるようになっていきます。

それから、先ほど森山委員からもお話がありましたが、こういう社会科で取り上げている地域というのは、各社とも全国さまざまな地域を取り上げているわけですが、東京書籍の6年生の歴史の中では、各地に残る鎌倉時代のエピソードとして町田市が取り上げられておまして、「鎌倉街道の1つの上道(かみつみち)で、鎌倉と秩父や高崎などを結んで、七国山に上っていく道」というふうに記され、鎌倉井戸や石碑の解説とともに、現在の鎌倉街道を走る接続バスの写真などが掲載されております。このことは子どもたちにとって身近で親しみやすいのではないかと考えております。

以上でございます。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。投票用紙の配付をお願いします。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

東京書籍3票、教育出版2票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の3票以上を獲得いたしました。したがって、2020年度使用教科用図書、小学校「社会科」は、東京書籍に決定いたします。

それでは次に、地図の教科について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 地図は、まず見やすさと、地図の活用のしやすさが重要なポイントであるということと、今回より3年生から使われることを考えると、高学年用のレベルの地図だけではなくて、3年生を意識した少し簡易的な地図の扱いというのが大変大きな位置を占めると考えました。また、当然社会科との関連もあり、デジタル情報などの充実の点からも、私は帝国書院の地図がより使いやすいと判断いたしました。

以上です。

○森山委員 私は、帝国書院の「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」並びに東京書籍の「新しい地図帳」、両教科書に共通することは、小学校の3年生から6年生まで、いわゆる長い期間使うというところで、それぞれの学年の目標と内容にのっとった地図として使えるかどうかということが一番重要な観点といたしました。そういう意味におきましては、どちらの教科書もこの内容を踏まえて作成されているということがまず大きな点かと思えます。

もう1点は、地図上の情報がどのような形で地図帳の中に生かされているかという点です。これにつきましては、東京書籍のほうが地図上の情報量については非常に多いと言えるかと思います。ただ、子どもたちの見やすさと活用のしやすさからすると、帝国書院の地図のほうが、その点についての明確さがあるかと思います。そういう意味で、どちらも工夫はされておりますが、帝国書院の地図のほうが、全体的に見てわかりやすく示されている点、それから見やすい表記がなされている点で、地図としての使いやすさがあるのではないかと思います。

以上です。

○八並委員 私は、今回この地図帳を見たときに、今まで地図帳というと、かたいイメージだったのが、非常にやわらかいというか、易しいというか、わかりやすいというか、そのような地図帳に変わってきているのだなということを感じました。先ほど後藤委員からもありましたように、3年生から活用するとなると、よりわかりやすい地図帳ということが求められているのかなと感じました。特に見やすさということで言うと、私は帝国書院のものが見やすいように思いましたが、社会科は、先ほども申し上げましたとおり、いろいろな資料を読み解くということで、情報量が多い東京書籍のものも非常によろしいかと思えます。

ただ、どの資料をどのように活用するかということが授業で求められてくると思えますし、そこに載っているもの、それから私たちが住んでいる町田市とか、世界と日本とか、いろいろな形で資料を活用するということになってくると、その辺は先生方の裁量によるところがかなり大きいのではないかなとは思いましたが、いろいろなことを調べるという観点からいくと、資料や情報量が多いということには意味があると思います。ただ、見やすさとかわかりやすさということを考えると、帝国書院の地図帳がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○坂上委員 結論から先に申し上げますと、私は帝国書院がよいかと思います。帝国書院は、地図においては長年の実績を積んでいるということもあり、大変見やすく工夫がされているのがわかります。まず巻頭に、3年生からでも地図を使用できるように、簡易的でわかりやすい日本地図を取り入れ、地図の見方も詳しく説明がされており、初めて地図帳を使うのに、抵抗感なく自然に入っていける工夫は大変よいと思いました。

また、東京都の地図において、詳細地図が、首都部だけではなく、東京都全体を大きく

示し、町田市の位置、形が大変わかりやすく載っています。これは子どもたちが、自分たちの住んでいる町田市が東京都のどの辺にあるのか、また、近隣にはどんな市や県があるのかが大変よくわかり、自分が住んでいるところに興味・関心を持てると思いました。そして、地図は、どうしてもたくさんの細かい文字の中で、地名や場所を探す作業が多くなるので、なるべく地図の地の色を薄くし、文字が見やすくなるよう配慮されている点においても、私は帝国書院が大変よいかと思いました。

私からは以上です。

○**教育長** それでは、私から意見を述べさせていただきます。

地図については、パッと見ただけで、2社の地図の色合いですとか、色調に大きな差があることがわかります。これは好みによるものだと思いますけれども、私は帝国書院のほうの方が明るく鮮明な印象を受けました。また、地名や山の高低差といったことについても、帝国書院のほうの方がはっきりしていてわかりやすいと感じました。

また、坂上委員からもお話がございましたが、東京都の地図については、東京書籍のほうは地図が小さくて、町田市は、「町田市」という文字しか見えないのですけれども、帝国書院のほうは大きくて、「町田市陸上競技場」や「薬師池公園」、「町田リス園」などの名称が入っていて、町田市的位置や形、名所などがわかりやすいと思いました。

以上でございます。

それでは、それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

投票用紙を配付してください。

(投票)

○**教育総務課長** 発表いたします。

東京書籍 1 票、帝国書院 4 票、以上です。

○**教育長** ただいまの発表のとおり、投票の結果、帝国書院が 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「地図」は、帝国書院に決定いたします。

それでは続いて、算数の教科について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○**後藤委員** 算数科も町田市学力調査結果に大きく影響している教科です。国語科同様に、現在、東京都では平均以下という実態であると思えます。したがって、そのような状況下では、算数も問題解決学習の展開を重視しているということで、どの社もそれぞれ意識した紙面構成とか学び方、具体的な見通し、ノートへの記述、対話、振り返りなどとい

うのは非常にはっきりと示されています。

そのような中では、子どもが主体的で、協同的に取り組めるような構成に工夫が見られていました。新しくプログラミング学習も入ってきましたが、当然全ての社で該当する単元を学年で取り扱っており、教科として各社とも内容面や紙面構成の差が比較的少ない教科であったと感じています。その中でよりわかりやすいとか、学びやすいという視点で見ると、私は東京書籍と学校図書の2社だというふうに判断しました。ただし、一部の教科書の中で人権上の配慮が必要であると感じる部分もありましたので、この点は大変重いことだと考えております。

以上です。

○森山委員 私のほうから意見を述べさせていただきたいと思います。

まず算数の科目につきましては、どの教科書におきましても、子どもたちが非常にわかりやすく学びが進められるような工夫がそれぞれ見られました。加えて、プログラミング学習については、それぞれの教科書が工夫をし、その中で取り扱いをする。例えばデジタルコンテンツ活用ページにリンクをすとか、そういういろいろな形での工夫が見られました。

そういう意味では、それぞれの教科書に優劣をつけるというのはなかなか難しい点もございましたが、その中でも特に私は、東京書籍の「新しい算数」、学校図書の「みんなと学ぶ 小学校 算数」、教育出版の「小学算数」の3社の教科書を挙げたいと思います。特に数学的な見方・考え方というのを授業の中でどのように具体的に捉えているかという観点から見ると、この3社が非常に工夫をして、その中で数学的な見方・考え方を授業のゴールで明確に示しているのではないかと思います。

もう1点は、内容の書式とか、配列についての観点です。このことについても、この単元の中で非常に工夫がなされ、子どもたちの学習がスムーズに進められるというような観点から見ると、先ほどの3社の教科書を挙げたいと思います。

以上です。

○八並委員 算数ですが、私は、東京書籍、学校図書、日本文教出版の3社が非常によくまとまっているのではないかと考えました。どの教科書も1年生の導入の部分、2年生の九九の部分、それから高学年の5年生・6年生の部分という形で注目してみたのですけれども、どの社も特に1年生の導入の部分は非常に丁寧に扱っておりました。特に東京書籍の1年生の分冊は非常によいものだなと感じております。

また、九九においても、各教科書とも非常に丁寧に段階を踏んで取り上げておりました。そういった中でも、それぞれの単元との連結が丁寧になっているものとして、東京書籍の「新しい算数」が非常に興味深く感じました。

私からは以上です。

○坂上委員 算数においては全社ともそれぞれ大変よくできており、甲乙つけがたく、大変悩みました。私自身、算数は苦手で、小学校のときのつまずきがいまだに引きずっている部分もあり、それだけに、これから算数を学ぶ子どもたち、そして教える先生方にとっても使いやすく、わかりやすい教科書であってほしいと思います。

調査協議会の報告書も参考にさせていただきましたが、私は東京書籍がよいと思います。単元の終わりに基礎・基本の確認、そしてそこから発展的な課題の提示へと流れが工夫されており、子どもたちが自主的に課題解決に向かえる内容になっていました。また、1年生は教科書と別に、問題を中心とした別冊がついており、繰り返し学習で基礎・基本をしっかり身につけるのに大変よいと思いました。

私からは以上です。

○教育長 それでは、私から発言させていただきます。

私は、算数と言うと、一度わからなくてつまずくと、次に進む意欲がなくなってしまつて、またそれを取り戻すにもなかなか難しい教科だと思っています。ですので、子どもたちの学習への興味を引き出す工夫ですとか、それを継続させる工夫があるかというような観点で見させていただきました。

そういう観点の中では、導入段階や振り返りの段階などで、写真やゲーム、クイズ等を使ってさまざまな工夫が感じられ、また紙面も見やすかった東京書籍、あるいは日本文教出版といったところがすぐれているのではというふうに思いました。中でも東京書籍は、各単元の終わりに基礎・基本の確認と発展的な課題が提示されていて、巻末には「ふりかえりコーナー」というのがあって、以前に学習した用語や定義などを振り返ることができて、子どもたちが自主的に課題解決に向かえる工夫が見られました。また、これは八並委員からもお話がございましたが、1年生の別冊としてついている「さんすうのとびら」というのは、装丁にしても、中身にしても、1年生にはとても役に立つのではないかというふうに感じました。

以上でございます。

それぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

東京書籍 5 票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「算数」は、東京書籍に決定をいたします。

それでは次に、理科の教科について審議をいたします。

なお、本日の会議の冒頭での決定に従いまして、理科の教科用図書の採択では後藤委員には席を外していただきたいと思います。

休憩いたします。

午前 11 時 12 分休憩

---

午前 11 時 13 分再開

○教育長 再開いたします。

それでは、理科の教科について審議をいたします。

投票に先立ちまして、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○森山委員 理科について意見を述べさせていただきたいと思います。

理科についても、やはり先ほども出ましたけれども、「主体的・対話的で深い学び」をどのような形で実現するのかというのは、まさに理科の授業の流れを明確に示すということが非常に重要な問題だと思います。

そういう観点からいたしまして、特に私が注目といたしますか、この中で、東京書籍の「新しい理科」については、結果を踏まえて、考察をする。その後、まとめるという流れが明確に示されているのではないかと思います。それは今のことを踏まえて次の展開があるという流れが明確に示されているというふうに理解できました。

あともう 1 社、大日本図書の「たのしい理科」については、これも実際に児童が生活の中でいろいろ経験をしますので、その中から疑問を見出して、それを学習課題につなげるという工夫が見られました。そういう意味では、学習課題について、どのような形で子どもたちに興味を持たせて、その課題にどのような方向で突き進んでいくのかという意味で、教科書が明確にその流れを示しているのではないかと思います。

あともう1社、教育出版の「未来をひらく 小学理科」という教科書です。これにつきましても、子どもたちの実際のいろいろな経験とか、これまでの生活の中の疑問から学習課題を見出し、つなげようという流れが明確に示されている教科書だと思いました。そういう意味では、問題あるいは課題の解決に対して、理科という授業がどのような流れをたどって子どもたちの解決につながっていくのかというようなところでの工夫が見られたと思います。私は、理科の学習の仕方あるいは学習のプロセス、そして理科の科学的な物の見方・考え方をそのプロセスの中で実現させるのに、先ほどの3社を挙げました。

以上です。

○八並委員 私は、理科の教科書につきましては、写真や実験のデータなどがわかりやすいということも1つの観点につけ加えさせていただきました。どの教科書も、目次の前に、前学年で学んだことや、この学年で身につけるべきことなどが、しっかり取り上げられておりました。

教育出版につきましては、問題解決のために観察・実験、それから結論、その後新たな問題を見つけようというような学習の進め方が示されており、ノートのとり方なども丁寧に示されていたのが印象的でした。

また、大日本図書につきましては、各単元の前に、その単位に関することで、前学年で学んだことが示されており、それは各單元ごとにその場で児童が振り返りができるということで、こういう部分は大変いいのではないかと思います。

また、各社、巻頭にいろいろな工夫をされておりましたが、教育出版は、科学者や宇宙飛行士からのメッセージなどがありましたし、大日本図書におきましては、日本や世界の景色と、短歌やいろいろな英語の名文などが載っていて、他教科とのつながり、横断的な学習を意識したものになっておりました。

また、特に6年生の教科書を見比べたときに、例えば教育出版と大日本図書では目次の並びが違ったのですが、私が見たところ、教育出版の目次の並び方のほうが指導しやすいように感じたりいたしました。大日本図書の「りかのたまてばこ」などは非常に興味深いものがあり、児童の興味・関心を非常に引きつけるものの1つではないかと思います。

私からは以上です。

○坂上委員 理科も社会と同様に、1・2年生では生活科で学んできたことを、3年生からは理科として専門教科で学びます。今回私も理科の教科書を読み直し、理科で学習する内容というのは、実は私たちの日常生活に大変身近なものだということを改めて認識しま

した。四季折々の自然の変化、その中で生きている生物、天気の変化や気温、太陽、宇宙、そして生命、また電気の流れや水溶液のことなど、どれをとっても私たちの生活の中で欠かせないことばかりでした。

しかしながら、世の中が便利になり、当たり前にある事象に「どうして?」、「なぜ?」の疑問や探究心を失いつつあります。その疑問や探究心を改めて授業で理科として学習し、問題解決型の視点で見えていくと、私は大日本図書と教育出版がよいかと思いました。理科は学年で学ぶ単元が決められているので、その単元に合った資料、写真、イラスト、説明文の比較がしやすく、特にこの2社は大変興味・関心を引く写真やイラストの工夫がされており、レイアウトやイラストや写真の大きさがとても見やすいと思いました。この2社は、日常生活の中で気づかずにいたことを理科の視点で考えることが楽しくなるような教科書だと私は思いました。

私からは以上です。

**○教育長** それでは、私の意見を述べさせていただきます。

理科の教科については、各社とも導入部分に漫画を使ったり、キャラクターに話させたり、写真や挿絵などを豊富に使うなどして、子どもたちの興味や関心を引き出す工夫がございました。また、実験等に際しての安全性の確保ですとか、注意すべきところなどの扱い方の工夫は、用具などに若干の違いはありますが、各社ともしっかり押さえられていると思いました。

そういう意味では、各社拮抗しているというような状況ですが、調査協議会の報告にもあるとおり、子どもたちがみずから課題を発見し、その課題の解決に主体的に取り組ませるというような観点では、大日本図書、あるいは教育出版が、予想や考察の扱いを強調し過ぎずに、変に解説に誘導されないというか、むしろシンプルで、より子どもたちの主体的な取り組みに配慮した書き方になっているというふうに感じました。

特に教育出版は、デジタルコンテンツや関連サイトへのリンクが大変多く掲載されておりまして、ICT機器を使った授業においても活用度が高いというふうに感じました。また、町田市の大賀ハスのハス田の写真ですとか、アサガオやヘチマの観察をする町田市の子どもたちの写真が多く掲載されていて、子どもたちにも親しみやすいのではないかと感じております。

以上でございます。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

なお、小学校理科の採択では、教育長及び委員の総数は4名となりますが、採択の条件は過半数の票の獲得ですので、他の教科同様に3票以上を過半数といたします。

それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

教育出版4票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、教育出版が過半数、3票以上を獲得いたしましたので、2020年度使用教科用図書、小学校「理科」は、教育出版に決定いたします。

休憩いたします。

午前11時24分休憩

---

午前11時25分再開

○教育長 再開いたします。

それでは次に、生活の教科について審議いたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 生活科の教科書は特徴的な使われ方があると思います。子どもたちに学びの対象に対する関心を抱かせて、子どもなりに見通しを持たせて、計画を立て、子どもがみずから活動していけるように導くのが大きな役割です。実際の活動後には、その振り返りを行って、自分が成長した点などを実感できるように、そしてそれが次への意欲につながるような構成が必要になってきます。

したがって、国語とか算数のような教科書の使い方とは少し異なってきます。まさにアクティブラーニングに対応した教科書がいいと思われれます。その上で、生活科は、屋外あるいは季節にかかわる活動も大変多く、子どもがみずから意識して安全に活動ができるという点がまた重要です。

多くの教科書では巻末のほうに安全対策を入れているのですが、実は教科書の紙面上、展開をする場面に、そのときそのときの安全対策、例えば夏の活動では、熱中症の予防対策としての帽子をかぶる、あるいは水分を補給する。また動植物へのアレルギー対応などの文言や絵、写真を適切に配置し、子ども自身が安全に気をつけてやらなくてはならないんだという意識を、教科書を通して訴えるというか、そういう掲載などが必要だと考えています。中には炎天下で帽子をかぶっていなかったり、ハサミや鉛筆といったものを持つ

たまま行動しているように見える写真などが使われている教科書もあって、この点はやはり安全上の配慮というのは大変重要だろうと思われます。この学び方や安全配慮をわかりやすく構成している教科書としては、東京書籍と教育出版の表現が適切であると判断いたしました。

以上です。

**○森山委員** 生活科につきましては、体験に訴える、いわゆる体験的学習を主たる活動とした生活科の学びというのが軸にあると思います。そういう中で、教科書はどのような役割を果たすのかというところが大きな観点だと思っています。体験的学習の中では、五感を通して子どもたちが実際に経験して、主体的に学ぶということが重要なポイントだと思います。例えば見ること、遊ぶこと、あるいは聞くということもあるでしょう。いわゆる五感が非常に重要な観点かと思っています。それをサポートするというか、それに対する主たる教材としての教科書の意味はどのようなところにあるのか、そこを中心に生活科の教科書について検討させていただきました。

その中で特に、学校図書の「みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ」という教科書ですが、これにつきましては、子どもたちが積極的に教科書を読むといいですか、使って、ぜひやってみたくなるという内容がすごく含まれていて、そういう意味での教科書の価値が非常に高いのではないかと思います。それぞれの教科書で子どもたちにわかりやすく示しているという工夫が見られるのですが、その中でも特に学校図書の教科書については、子どもたちの学習プロセスがわかりやすく示してあって、非常に評価が高いと思いました。

もう1点は、教育出版の「せいかつ」という教科書です。これにつきましても、子どもたちがいろいろなものと出会って、その体験をもとに実践して、最終的に振り返りをするという主体的な学びが実現できる、そういう特徴が教科書にあると思います。加えて、1年間の授業の流れというのが明確に示されているのではないかと思います。

私の意見は以上です。

**○八並委員** 私も1・2年生で学ぶ生活科の中で、子どもたちがいかに学校生活を通して、それぞれ興味・関心を持って学習することができるかということを考えました。どの教科書もスタートカリキュラムといいますか、そういった学校生活になれるためにということで、導入部分を非常に丁寧に扱っていたのが印象的でした。

また、それぞれ特徴があると思うのですが、例えば学校図書におきましては、1年生の

植物を育てる項目のところですが、ミニページの横に、種、双葉、本葉、花、実のなるところというのが、同じところに表示されているので、それを見比べることによって、成長過程を非常にわかりやすく理解することができます。

特に学校図書では、サルビアの種も取り扱っておりまして、町田市の花として、こういうものも取り上げていただけるのだなと思いました。

特に、まとめのところ、「生活科 学び方図かん」とか、「あんぜんのページ」などが巻末にあったり、「ものしりノート」というのは、非常によいもので、使えるのではないかなと感じました。

それに対して教育出版は、同じようにまとまっておりますが、それぞれの単元の後に「何をかんじたかな」という発問がされており、これは子どもたちのいろいろな発想を呼ぶ発問の1つではないかと思って、非常に意義深く感じました。「学びのポケット」などもあり、非常に興味を引く工夫をされていたのが印象的でした。

以上です。

**○坂上委員** どの教科書も大変よくできており、こちらの教科についても甲乙つけがたく、大変悩みましたが、私は光村図書出版と学校図書がよいかと思いました。幼少連携の視点から、入学時の子どもにとって、学校はどんなところか、期待と不安が入りまじった不安定な時期でもあります。

そこで、生活科では、学校生活を初め、日常の自分の生活、またそれを取り巻く環境、自然、そして自分にかかわる周りの人など、さまざまな情報を学び、自分がこれからの生活でどうかかわっていくかの基盤を学ぶ大切な教科だと思います。そのときに使う教科書として、未知の世界に子どもたちが興味・関心を持ち、学びの意欲が出せるような内容であってほしいと思いました。

その点で、この2社は、写真やイラストが大きく、文字を少な目にし、シンプルに構成されており、子どもたちの興味・関心をかき立てる工夫がされているように感じました。生活科の教科書は、ページをめくるたびに、次は何を学ぶのか、子どもたちがわくわくするような意欲の出せる内容がふさわしいと思います。

私からは以上です。

**○教育長** それでは、私の意見を申し上げます。

生活科というのは、社会や自然とのかかわりですとか、いろいろな生活体験が不足している子どもたちに、この教科によってさまざまな気づきを促して、社会を生き抜く力を培

うというような側面があると思います。そういう意味では、生活科というのは、教科書の内容を教えるのではなくて、これからいろいろな体験活動をしよという子どもたちに興味・意欲を持たせて、さまざまな体験から気づきを促すような工夫が求められると思っています。

そういう視点で見ますと、私は、学校図書あるいは光村図書出版のように、なるべくシンプルで、子どもたちにわかりやすい構成の教科書がよいと思いました。特に学校図書は、単元の初めの元気はつらつとした子どもたちの姿、笑顔の写真は、子どもたちを引きつけ、わかりやすい学習の流れからは、子どもたちにやってみたいと思わせるようなつくりになっているというふうに感じました。また、全体的にシンプルで、写真とともに気づきを促す言葉で構成されていてわかりやすく、子どもたちの気づきを促しやすいのではないかと考えました。

以上でございます。

それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙の配付をお願いします。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

学校図書2票、教育出版3票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2020年度使用教科用図書、小学校「生活」は、教育出版に決定いたします。

それでは続きまして、音楽の教科書について審議をいたします。

委員の皆様からご意見を頂戴したいと思います。

○後藤委員 音楽の教科書は、町田市教育プランに掲げた「うたひびくまちだ」の取り組みに直結する教科だと考えています。子どもたちが楽しく歌い、演奏していくには、子どもの等身大の学びを大切にしてほしいと考えています。この点から見て、子どもたちの興味・関心を抱かせ、高める工夫をしている絵譜、あるいは選曲、曲の難易度などを比較してみますと、バランスよくつくられていると感じたのは教育芸術社であります。また、国歌の学習の取り扱いについても、教育芸術社のほうは幅のある解説を工夫していると思われました。

以上です。

○森山委員 私からも一言意見を述べさせていただきたいと思います。

音楽については、これは小学校教科用図書調査協議会の報告書も十分に参考にさせていただいた上での意見でございますが、1つは、教育出版の「小学音楽 音楽のおくりもの」の教科書につきましては、非常に上級であるという感じがいたしました。特に学習の難易度が少し高いのではないかという感じもいたしました。そういう意味では、全体的にレベルの高い教科書ではないかと感じました。特に具体的には体を動かすという活動が示されている点には非常に特徴があり、いい教科書であると感じております。

一方、教育芸術社の「小学生の音楽」につきましては、全体的にいわゆる標準的な内容を取り扱っている教科書ではないかと判断をいたしました。そういう意味では、領域ごとに非常にバランスよく教材が示されていて、ねらいが特に明確になっているという点に教育芸術社の教科書の特徴があると感じています。

どちらも非常に工夫をされて、それぞれ特徴のある教科書でありますので、どちらがいいという評価が分かれる面もあろうかと思えます。私はどちらを選ぶかといいますと、それぞれの教科書に特徴あるいは特色を持たせた内容になっておりますので、その点でいきますと、どちらがいいという判断がなかなか難しいところでもございました。意見としては一応このような形で述べさせていただきたいと思えます。

以上です。

○八並委員 私も、どちらも非常に工夫されていると感じましたが、特に特徴的なところでは、教育出版の巻末には打楽器の写真が非常にわかりやすく載っておりました。また、全校合唱として「さんぽ」を取り上げており、それが1・2年生から学年が上がるにつれ、少しずつ高度になっていっているというような工夫が見てとれました。

それに対して、教育芸術社のほうでは、特に歌声に関するコメントで非常によいものがある、例えば4年生の「歌声のひびきを感じ取ろう」というところでは、「音の高さやリズムに気をつけながら」とか、「明るい声で歌いましょう」という、割と具体的な指示があり、また発声の仕方ということで、「あくびをするようなつもりで」とか、発声の仕方が明確に示されているというのが教育芸術社のように感じました。

町田市は「うたひびくまちだ」を掲げ、教育の充実を進めておりますが、そういった部分では、教育芸術社の教科書が先生方のご指導にも合っているのではないかなと感じたところでございます。ただ、どちらの教科書も裏表紙などには、浅田真央さんや野村萬斎さん、歌舞伎の市川猿之助さんなど、郷土芸能やいろいろな表現者ということで取り上げら

れており、音楽も表現をすることだよということで、とてもよいつくりになっていると感じました。

以上です。

○**坂上委員** 音楽の教科書は、結論から先に申し上げますと、教育芸術社がよいと思います。領域ごとの教材数が多いので、幅広い選択肢の中で、子どもたちや教える先生方にも合わせて授業ができると思いました。

そして、何より私が注目いたしましたのは、国歌の取り扱いが大変丁寧な点です。全学年の巻末、見開き2ページを使い、国歌の意味や大切さをしっかりと説明しています。来年の東京オリンピック・パラリンピックでは国歌を聞く場面もあるかと思います。そのときに、日本の国歌を知って聞くのと、知らないで聞くのでは、重みが全く違ってくるのではないかと思いました。また、他の国の国歌を尊重する姿勢や、聞くときのマナーなどもあわせて載せており、オリパラ教育にもつながると思いました。

私からは以上です。

○**教育長** それでは、私の意見を申し上げます。

音楽の教科では、表現や鑑賞活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成するというのが目標で、表現教材や鑑賞教材の充実といったようなことが観点になると考えます。

教育出版のほうは、写真や絵が多く、また歌唱教材が数多く掲載されていますが、調査協議会の報告によると、選曲や構成など、全体的に上級者向きで、単元に含まれないものも載っている。また、記号や専門用語などの知識を学ばせることにも力を入れています。また、見開きのページが多いのも、子どもたちの取り扱いがどうなのか、気になるところでございます。

一方の教育芸術社のほうは、全体に標準的で、必要な要点に絞った解説があって、表現、鑑賞教材は適切な分量というふうに考えます。

二者択一ということで迷うのですが、教育芸術社のほうは実践的で、説明し過ぎない記載であるために、先生が授業展開をしやすい。言いかえれば、先生の力量を問われるということかもしれませんが、子どもたちの気づきを促したり、みずから考えさせたりすることに有効ではないかと思っています。また、教育芸術社には、デジタルコンテンツが多く掲載されておりまして、ICT機器を使った授業においても活用度が高いと感じました。

以上でございます。

それでは、それぞれの意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。  
投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

教育芸術社 5 票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、教育芸術社が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「音楽」は、教育芸術社に決定いたします。

それでは次に、図画工作の教科書について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 図画工作の教科書は、学びの対象に関心を抱かせて、子どもなりに見通しを持って、みずから表現活動していくことを導く、あるいは、その導きに応じて作品をつくり、鑑賞したりして、表現を楽しむことができるというような教科書の構成が望ましいと考えます。したがって、当然その児童の個性を生かすことや、見通しを持って学べること、同時に、基礎的・基本的な技能、用具の安全な取り扱いなどが示されているというのが重要だと考えています。また、QRコードを活用したデジタルコンテンツなども効果的に取り入れている工夫がそれぞれにありました。

いずれの社もバランスのとれた教科書ではありましたが、より子どもの側に立った呼びかけ方とか、あるいは鑑賞教材の扱いが少し違っていて、私は、鑑賞教材は、作品づくりにつなげているという学習の組み立て方の取り組みが非常にいいのではないかとこのように評価しましたので、開隆堂出版がよりよいと判断しております。

以上です。

○森山委員 私は、図画工作については 2 社を比較して見せていただきました。図画工作ですから、表現活動、加えて鑑賞という重要な要素もございます。そういう観点から、どちらも内容が明確に示されて、教材、題材をどのような形で取り扱うかについて、非常に詳細な記述がなされていると考えております。そういう中で、特に児童の内面を豊かにすること、加えて、個性とかそういうものを自分で課題を見つけて、自分でそれを解決する、そういう行動、学習が、図画工作には非常に重要な観点かとも思います。

そういう観点からいきますと、どちらの教科書も非常に工夫がなされて、系統的な配列という点では、系統性についてはどちらも明確に示されていると考えております。その中

でも、私は開隆堂出版の「図画工作」の教科書が適切ではないかというふうに判断いたしました。

以上です。

○八並委員 どちらの教科書も大変興味を持って授業ができる教科書なのではないかなと思いましたが、よりわかりやすく示されているのは開隆堂出版の教科書ではないかと思われました。わかりやすいけれども、こうすればよいというようなそれぞれの指示とか手順は非常に簡潔におさめられておりました。

それに対して、日本文教出版のほうは、非常に丁寧な説明があるので、これはどちらのほうが授業しやすいのかなというふうに考えるところではありますが、近年の各学校の作品展などを見せていただきますと、より自由な発想というものが求められているのではないかなというふうなことを感じました。

私からは以上です。

○坂上委員 図画工作の教科書は、国語や算数などのように、教科書に沿って授業を進めるように使用することが少ないと聞いています。子どもたちの作品づくりの参考にしたり、イメージづくりに使われることが多いと思います。また、使われる先生方によっても、教科書の使い方はさまざま違ってくるかと思しますので、その点で両社を見ると、大きな差はないかと思われました。

どちらの教科書も子どもたちの感性や想像力を育み、子どもたちの作品づくりのイメージやヒントとなるよう、生徒がつくった作品がたくさん載っていますが、開隆堂出版は、学年が上がるにつれて、名画や絵画、仏像などの彫刻を大きく取り上げ、また、そこから何を感じて、自分の作品に生かすのかを導いていました。有名な作品に触れること、見ることから学び、自分の作品に生かすことも、感性や想像力を育む上で、大切なことだと思いました。また、巻末の道具の使い方も、開隆堂出版のほうがわかりやすいと私は思いました。

以上です。

○教育長 それでは、私から意見を申し上げます。

図画工作については、表現や鑑賞活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる資質・能力を育成するということが目標とされております。

これを踏まえて、2社の教科書が出ておりますが、開隆堂出版のほうは、写真やロゴな

どが視角的に親しみやすく、子どもたちが自分の考えを広げるような言葉や意欲・関心を引き出すような工夫が感じられました。また、子どもたちが活動している大きな写真とともに、「ひとことアドバイス」などが添えられていて、子どもたちが何かをつくろうという意欲を持ちやすいのではないかと思います。

一方、日本文教出版のほうは、活動手順などに丁寧な説明がございまして、子どもたちが学び方を習得しやすく、調査協議会の報告のとおり、担任の先生が指導する場合でも、指導しやすい教科書ではないかと思います。

これも二者択一ということで迷うのですけれども、先ほどの音楽と同様に、開隆堂出版のほうは、実践的で説明し過ぎない記載であるために、先生が授業展開しやすい。特に図工専科の先生にはこちらが向いていると思います。言いかえれば、専科でない担任の先生が指導する場合には、その力量を問われるということになるかもしれませんが、子どもたちの造形的な見方・考え方を広げたり、想像しようという態度を養ったりするには、開隆堂出版のほうが有効ではないかと思っております。また、開隆堂出版にはデジタルコンテンツが多く掲載されておりまして、ICT機器を使った授業においても活用度が高いと感じました。

以上でございます。

それぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

開隆堂出版 5 票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、開隆堂出版が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「図画工作」は、開隆堂出版に決定いたします。

12 時になりましたので、一旦休憩をとりたいと思います。再開は午後 1 時といたします。

休憩いたします。

午前 11 時 59 分休憩

---

午後 1 時 00 分再開

○教育長 再開いたします。

家庭の教科について審議いたします。

各委員の皆様から意見をお願いいたします。

○後藤委員 家庭科の教科書は、手順よく学んでいくということの過程で、思考、判断、表現する活動を通してながら、技能とか知識を身につけるという構成が非常に大切ではないかと考えています。また、子どもたちにとっては初めて使う器具、用具、その使い方とか、あるいは技能面をしっかりと身につけるといふことが必要な教科でもあります。したがって、教科書の紙面だけではなく、デジタルコンテンツなどは非常に有効に学習の効果があると考えています。

また、町田市家庭科指導の実態が、専科教員の割合が少しずつ低下していき、担任の教員の割合が高くなっているというふうに見ています。つまり、担任の先生たちが家庭科の授業をより指導しやすい、あるいは教えやすいというのは、教科書にとっても大きな役割が課されていると思います。これらのことから、私は、開隆堂出版がよりよい対応ができるのではないかとこのように判断しています。

以上です。

○森山委員 家庭科については、まさに生活の営みにかかるところの見方と考え方で、衣食住に関する体験的、実践的な活動を通して生活をよりよくしていこうという資質・能力を育成するところに観点があります。そういう観点からしますと、やはり教科書も、ただ教科書というよりも、むしろその題材についてのわかりやすい説明であったり、資料とか写真とか、児童が理解しやすいような教材としての価値が必要だと考えています。

そういう中で、東京書籍の「新しい家庭」、開隆堂出版の「小学校 わたしたちの家庭科」、双方非常に工夫が見られますし、QRコードについても、それぞれ動画を見ながら学習できるような観点も今回新たに示されたところかと思えます。そういった中で、特に東京書籍については、題材の説明が非常にしっかりとしていることと、子どもたちが意欲を持って学習できるような内容がふんだんに含まれているというよさがあるかと思えます。

他方、開隆堂出版の教科書につきましては、学習の方向、めあてが非常に明確に示されているということで、児童が振り返って学習する。例えば実際に体験・実践的な学習をした後に、次に進む前に明確に振り返りができるというメリットがあるかと思えます。

先ほど申し上げたとおり、双方どちらも動画等の工夫もされておりますが、実際に使う側からしますと、開隆堂出版の学習のめあてというところに着眼するということが重要なのではないかと思えます。したがって、どちらということを選ぶことがなかなか難しいの

ですが、最終的には開隆堂出版の「小学校 わたしたちの家庭科」がよろしいのではないかという意見です。

○八並委員 2社ともに大変よくまとまっており、わかりやすく示されていると感じました。特に家庭科では、学校で習得した技術を実際に家庭あるいは生活の中で生かしていくということが大きなことになると思うのです。そういった中で、例えば安全に関しては、東京書籍ですと巻末にまとめてあったり、開隆堂出版におきましては巻頭でそれを扱っています。また、いろいろな技術の習得ということと言いますと、東京書籍は、巻末に切り方や道具の使い方が大きくわかりやすくまとまっておりましたし、開隆堂出版におきましては、裏表紙にいろいろな切り方の写真が並んでいます。

そういうことを見ると、児童が実際に、自分が何かをすることになったときには、どちらのほうが良いのかなというふうには思いました。ただ、デジタルコンテンツなどにつきましては、開隆堂出版のほう非常に充実したものがあるというふうに感じましたので、私は開隆堂出版の教科書が良いのではないかと思います。

以上です。

○坂上委員 家庭科を学ぶということは、自立心を養う、つまり、生活の中で自分のできること、わかることがふえてくることにつながると思います。日常の生活の中で、自分でできること、わかることがふえるのは、子どもたちにとっても大変うれしいことで、それは自信や自己肯定感にもつながると思います。また、家庭科で学ぶことは、これから先も自分が生活していく上で、ずっと使える知識でもあります。今まで家族の者にしてもらっていた調理や裁縫、または身の回りのこと、生活のことを自分で考え、自分でやってみることに興味・関心、意欲を持てる内容であってほしいと思いました。

両社を比べて、内容的には大きな差はないかと思いましたが、その方法や使い方、作り方が説明されているページを比較しますと、私は、開隆堂出版のほうわかりやすく載っていると思いました。最近では、家庭科の専科の先生だけではなく、担任の先生が家庭科を教える小学校がふえているということですので、その点におきましても、専科の先生でなくてもわかりやすい教科書は、調査協議会の報告も参考にいたしましたところ、開隆堂出版のほうが良いと私は思いました。

以上です。

○教育長 それでは、私の意見を申し上げます。

森山委員からも先ほどお話がございましたが、家庭科では、生活の営みにかかわる見方・

考え方を働かせて、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することが目標となっております。

これを踏まえて、2社の教科書が出ておりますが、私は、開隆堂出版のほうが、東京書籍に比べて、調理や裁縫などの手順が、温かみのある挿絵や写真を活用して、視角的にわかりやすく、比較的短めの文章で説明されているところもわかりやすいなというふうに感じました。また、開隆堂出版にはデジタルコンテンツが数多く掲載されていて、ICT機器を使った授業でも活用度が高いものというふうに感じました。加えて、現場の先生方は、教科書のサイズが大きいと、作業しながらでは使いづらいというような思いがあるようですので、そのような点からも開隆堂出版を推したいと思っております。

以上でございます。

それぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表いたします。

開隆堂出版5票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、開隆堂出版が過半数の3票以上を獲得いたしましたので、2020年度使用教科用図書、小学校「家庭」は、開隆堂出版に決定いたします。

それでは続きまして、保健の教科書について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 保健の授業では、教科書を使って、それに従ってとといいますか、学ぶことが多くなると考えています。したがって、その教科書に示された内容や学び方というのは、学習のあり方に大きく影響しますし、プロセスとして課題を見つけたり、考えたり、話し合ったり、記述したり、まとめたりといった、各段階、段階が、丁寧に扱っている構成になっているほうが学びやすいのではないかというふうに判断しました。

さらに、第二性徴にかかわる内容については、教科書紙面の中に、自分の不安的な要素について、フォローをどうしていくかとか、心身の問題への不安が出たときにも、それをどのように、誰に相談していくかなども、ヒントなどとして示されているというのも重要な点だと思います。そして、グラフなどで示される客観的なデータを適所に配置するというのも、主観的な判断より、客観的に物を見るという点では大きな意味があると思いま

す。そして、デジタルコンテンツの活用も、特性として、ICT機器の活用を含めて、使えていくのではないかと考えました。

これらのことを総合しまして、私は光文書院と学研教育みらい、この2社の教科書がよいというふうに判断しております。

以上です。

**○森山委員** 私は、保健という種目は、具体的に実際にわかりやすい教科書が非常に重要ではないかと思います。そういう意味では、わかりやすくするための工夫が、図とか写真とか、実際の実生活に関係するようなことをふんだんに盛り込んだ教科書の記述が、児童にとって非常に理解しやすい教科書になるのではないかと思います。

保健の中では、健康についての課題を、自分の課題として捉えるというところが必要だと思います。そういう意味では、先ほどのわかりやすさ、資料等の図、写真等、あるいは実生活に近づけるための工夫が必要になるかと思っています。そういうところから考えますと、光文書院の「小学保健」、学研教育みらいの「みんなの保健」、東京書籍の「新しい保健」の3冊の教科書が、今の内容について非常に明快に実現されているのではないかと思います。

以上です。

**○八並委員** 私は、保健につきましては、特に二次性徴とか思春期のことについて、より子どもたちが理解しやすい内容になっているかということに着目してみました。中でも、光文書院は、QRコードなどが非常に充実していてわかりやすい内容になっておりましたし、学研教育みらいは、まず巻頭に「健康って、どんなこと？」ということがあって、子どもたちが、まず自分たちが成長していくときに、健康が一番大事だよということを非常に興味深く、関心が持てるような導入や工夫がされていたのが印象的でした。思春期のことにつきましては、どの教科書も丁寧な扱いをしてありましたが、私は学研教育みらいの取り上げ方が非常にわかりやすいように感じました。

以上です。

**○坂上委員** 保健に関しまして、結果から先に申し上げますと、私は光文書院がよいと思いました。まず冒頭にオリンピック・パラリンピックまたは世界選手権など、世界を舞台に活躍するスポーツ選手の写真とコメントが載っているのが大変インパクトがあり、躍動感あふれるこの写真を見て、これから保健で学んでいく健康って何だろうと考える導入にとっても効果的だと思いました。また、5社の中で、昨今スマートフォンやタブレットの所

持が低年齢化している現状を踏まえ、これらの誤った使い方による警鐘を一番詳しく丁寧に扱っていました。この点においては、個人的な思いですが、スマートフォン、タブレットの健康への弊害については、今後も授業の中でしっかりと取り扱ってほしい教材でもあります。

日々の生活の中で、発達段階に応じて、自分でできることやわかることがふえてきますが、保健では、ここでしっかりと心身ともに、健康とは何かという基礎知識を学んでほしいと思います。全体を通して、光文書院は、発達段階に応じたわかりやすい表現を使用し、イラストや写真なども見やすく、レイアウトなども工夫されていると感じました。

以上です。

○教育長 それでは、私の意見を申し上げます。

保健の教科では、私は、光文書院あるいは学研教育みらいといったところが、オリンピック・パラリンピック教育に関連づけられるような写真ですとか、挿絵を使ったり、実際に起こりそうな場面を事例に取り上げたりしながら、子どもたちの興味・関心を引く工夫がなされていて、また両社ともに、単元の最後のほうに、「自分の生活に生かす・伝える」あるいは「生活につなげる」といったコーナーがございまして、自分で学んだことを実際の生活に生かせるようなつくりになっております。

特に光文書院は、子どもたちの発達段階に応じた優しい表現になっていて、第二次性徴のところでは、「性についての悩み」のコーナーで、信頼できる大人に聞いてみようとか、相談できる人がいないときは電話相談窓口を紹介するなどしています。また、光文書院にはデジタルコンテンツが多く掲載されておりまして、動画によって子どもたちに多様な課題解決を促す工夫がされておりまして、ICT機器を使った授業でも活用度が高いというふうに感じました。

以上でございます。

委員の皆様からそれぞれのご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。それでは、投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表します。

東京書籍 1 票、光文書院 2 票、学研教育みらい 2 票です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、3 票以上を獲得した発行者はございませんでした。2 票獲得しました光文書院及び学研教育みらいの 2 社で第 2 回目の投票を行

いたいと思います。

ここで改めて追加のご意見などがございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。――よろしいですか。

それでは、投票用紙の配付をお願いいたします。

(投票)

○教育総務課長 発表します。

光文書院 3 票、学研教育みらい 2 票です。

○教育長 ただいま発表がございましたとおり、投票の結果、光文書院が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「保健」につきましては、光文書院に決定をいたします。

次に、道德の教科について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 道德科の教科書は、2 年前から使用がスタートしたものですけれども、今回も採択ということで、各社とも内容が余り大きく変えられているというふうには受けとめていません。当然教材文のみではなくて、学び方において、特に自分の考えの表出、あるいは他者の考えの受けとめ、そういうものを大変重要視して、考え、議論して、道德性を育てていくように構成されているかという点がやはり重視した点であります。

教科書の中には、ノートの特冊、あるいはノートの書き込み等をつけているところもありましたが、高学年になると、そのノートのスペースといいますか、分量といいますか、それだけでは子どもの考えを十分に表現できるかなという課題も感じました。

道德の教科書の中の対応として、QRコードなどをデジタルコンテンツに取り入れている教科書会社も 5 社ありました。さまざまな動画とか、あるいは映像を効果的に活用していくという方法も、授業づくりとして工夫できるという点が評価できると思います。町田市の子どもたちには、そういう中でシンプルであって、とても学びやすいというのが効果があると考えています。したがって、私はこの社の中から東京書籍、日本文教出版、それらが適しているというふうに判断いたしました。

以上です。

○森山委員 道德については、内容が、自分自身に関する事、主として人とのかかわりに関すること、主として集団や社会とのかかわりに関すること、主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関することという 4 つの事項があります。そこをどのような形で

具体的に教科書の中で内容として取り上げているかということに一番の観点がありました。

もう1点は、学習のプロセスが示されていることです。道徳そのものは、わかっていることをわからせるというか、最終的には児童の主体的な理解を促すというところに道徳の授業の大切さがあるかと思います。そういう観点から考えますと、自分のことをきちんと振り返ることができるような教科書になっているか。自分のことを振り返って考えられるような発問が用意されているか。また、自分だったらというふう実際に自分に置きかえて、その中で児童が理解できるような教科書になっているかどうか。

大きくその2つの観点から教科書を読ませていただきました。そういう中で、教育出版の「小学道徳 はばたこう明日へ」、東京書籍の「新訂 新しい道徳」、日本文教出版の「小学道徳 生きる力」の3冊が非常に合致しているというふうに理解をいたしました。

以上です。

**○八並委員** 特別の教科「道徳」として、道徳科が教科となり、道徳の教科書採択をするのも2回目となりました。前回も思ったのですが、子どもたちが気づくこと、そこから考え、話し合い、振り返り、新たに考えを見つけ、それを生活に生かすことが非常に大事になってくるのではないかと思います。

そうなったときに、なるべく発問が簡単であること、例えば単元の初めや本文の途中で発問が少ないものなど、教材を通した後に、先生が投げかける発問によって児童が考えられる、そのようなことがしやすい教科書がよいのではないかと考えました。そうした中で見ますと、東京書籍につきましては、発問が非常に簡単であり、教材の後に、その教材に関する発問がされていて、また自分を振り返る発問もあって、非常に簡潔でよろしいのではないかと考えました。

あと、分冊のノートがついているものもありましたが、教科書によっては、そのノートも各教材に合わせたというよりも、どの教材も同じような扱いになっていたりすることがありますので、ノートに関してはなくてもいいのではないかと感じております。

以上です。

**○坂上委員** 2年前に特別の教科となる道徳の教科書採択をしましたが、内容的には、今回も全社を通して大きな変更点はないように思われました。

前回も私は分冊ノートの有無を判断基準の1つとしてきましたが、今回もその判断基準の考え方は変わっておりません。限られた短い授業時間の中で、書き込むことに時間をかけるより、話し合いの時間を多くとってほしいと思っているからです。

道徳はその教材に対して、子どもたちが1人でも多く自分の考えを発言し、また他の人がどう考えているのかを聞き、自分ならどう思うか、どう考えるかを学ぶ時間であってほしいと思っています。

分冊ノートがない5社を比較すると、4つの領域の教材がバランスよく取り扱われ、文章が読みやすく、わかりやすい内容、そしてイラストや使用している写真などが適切であるかどうかという点で、私は引き続き東京書籍がよいと思います。現在使っている東京書籍の教科書は、前回の採択から2年がたち、子どもたちや先生方もちょうど使いなじんできたころではないかと思っております。また、使用していて大きな問題が出ている話も特に聞いておりませんので、私は引き続き東京書籍でよいと思います。

以上です。

○教育長 それでは、私から意見を申し上げます。

道徳の教科書については、子どもたちに物事を多面的、多角的に考えさせて、道徳的な判断力を育てるということを意識した授業が求められていると思います。具体的には、教科書の中の教材から、子どもたち1人1人にどう考えるか、どう捉えるかを自分で考えさせ、判断させる、そういうことを目標にしているというふうにとめております。

今回の道徳の教科書は8社から作成されておまして、各社それぞれに特徴や工夫があります。ほとんどの教科書が、各教材の冒頭や脚注あるいは巻末に、あらかじめ教材のめあてとかねらい、先生からの発問の内容が書いてあるわけですが、私は、このめあてとか発問に余りに具体的な内容を載せ過ぎると、子どもたちみずからの考えを決めつけることになったり、1つの答えに誘導することになったりして、かえって先生方の指導内容が縛られ、子どもたちも混乱させられるのではないかと考えております。

そのような観点で見たときに、私は今回の8社の教科書の中では、東京書籍あるいは日本文教出版あたりが、子どもたちにとっても、先生にとっても使いやすいのではというふうに感じました。特に東京書籍は、教材文の考え方については、一番シンプルに最低限の方向性が示されていて、子どもたちの考え方を決めつけるとか、答えを誘導するというようなリード文や発問等がない。また、子どもたちの発達段階に応じた教材の配列ですとか、文字の大きさ、挿絵等も適切なものであるというふうに感じております。

以上でございます。

それぞれ委員の皆様からご意見を頂戴いたしましたので、投票に入ります。

投票用紙を配付してください。

(投票)

○教育総務課長 発表します。

東京書籍 5 票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、東京書籍が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「道徳」は、東京書籍に決定いたします。

それでは次に、英語の教科について審議をいたします。

各委員の皆様からご意見をお願いいたします。

○後藤委員 小学校の英語科は、初めての教科用図書採択の対象となりました。7 社と多くの会社の教科書を検討する機会を得られました。町田市の小学校では 45 分の授業のみで英語科を行っている学校、また、15 分間の短時間学習を組み合わせで英語科を行っている学校と、それぞれのタイプがあります。いずれのやり方でも十分に活用できる教科書であるということが、教科書に課せられた必要な条件となります。

また、小学校の英語科の特性でもあるように、アクティブに学ぶことができる構成、あるいは家に帰ってからも学習フォローができるような QR コードの活用なども、教科書中の構成として考えていい点であろうと思いました。

各社の学び方の構成ではめあてを示して、それぞれ学びの段階を教科書会社ごとに工夫をして特徴をつけていますが、子どもがそれを学びやすいとか、専科だけでなく、担任教員が指導しやすいことを考えるときに、三省堂、光村図書出版がよいのではないかと判断いたしました。

以上です。

○森山委員 私からは、英語、いわゆる外国語活動に関しまして、教科書採択の観点からしますと、外国語による聞くことと話すこと、これはやりとりと発表を含むわけですが、このような言語活動を通しながら、コミュニケーションを図る力を育成することの観点から、特に知識及び技能はさることながら、もう 1 つの思考力、判断力、表現力等を育成するために、どのような工夫がなされているかというところを教科書の採択の 1 つの大きな観点といたしました。

そういう中で、こちらに掲げてある教科書につきましては、それぞれ特徴的なものもあり、非常に工夫されていると思います。その中でも、特に教育出版の「ONE WORLD Smiles」、三省堂の「CROWN Jr.」、東京書籍の「NEW HORIZON Elementary

English Course]、この3冊の教科書については、今掲げた2つの観点からしまして、児童がわかりやすく、特に知識、技能に偏ることなく、思考力、判断力、表現力等をなるべく全面的に打ち出した教科書になっているのではないかと思います。

以上です。

**○八並委員** いよいよ小学校にも英語科が導入されることになりましたが、今までの中学生で扱うという教科書というよりも、もっとわかりやすく、身近な英語という形で、各社とも編集をしているように感じました。

中でも三省堂あるいは光村図書出版は、非常によくまとまっているように感じました。特に三省堂は、まず5年生の導入のところで、「教室で使う英語」ということで、教師の指示が具体的に英語で最初に示されておりました。それに対して光村図書出版は、Can-Doリストということで、5年生でできるようになることが明示されていたり、デジタルコンテンツが非常に充実しています。先ほど後藤委員も言われましたように、自宅での学習ということを考えますと、光村図書出版の教科書も非常によいのではないかと感じているところであります。

以上です。

**○坂上委員** 小学校で学ぶ英語は、中学校英語へのつなぎと見るのではなく、1つの教科書として捉えるという点から、ある程度しっかりした内容が好ましいと思いました。しかしながら、内容が難し過ぎても、授業についていけず、英語嫌いを生んでしまっただけでは、小学校で英語を学ぶ意味がなくなってしまうので、今回、英語の教科書採択は本当に悩みました。また、授業は担任の先生が教えられることも考慮し、先生方にとっても使いやすい教科書であることも大事ですので、調査協議会の報告書を参考にさせていただきました。

その結果、光村図書出版がよいかと思います。全社を通して見ると、まずは絵や写真から英単語を学ぶために、少々色遣いの強いイラストが目立ち、見ていると、目が疲れてしまうようなものがとても多かったように思いました。ただ、光村図書出版と開隆堂出版は、比較的イラストの色遣いは抑え目で、イラストや写真の大きさも適度かと思います。

光村図書出版は、各ユニットの初めに「Goal」、つまり、そのユニットのめあてが示されており、このユニットでは何を学び、最終的にはどんなことができるようになるのかが明確に示されていたので、子どもたちにとっても、教える先生方にとっても、わかりやすく、使いやすいのではと思いました。ところどころに「Fun Time」というゲーム感覚で英語遊びができるページもあり、子どもたちの集中力が途切れない工夫もされている

ところがよかったと思います。

以上です。

○教育長 それでは、私の意見を申し上げたいと思います。

英語については、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するということが目標となっておりまして、これを踏まえて、今回7社の教科書が用意されております。

調査協議会の報告書ですとか、東京都教育委員会の教科書調査研究資料を見ますと、いずれの教科書も4つの技能をバランスよく扱っているとは言いがたく、それぞれに特色や工夫があるものの、一長一短があつて、子どもたちや担任の先生の負担を心配されているように感じました。

町田市では、以前から国の動きを先取りいたしまして、小学校の英語教育に先進的に取り組んできました。2009年度から玉川大学と協働で小学校英語のオリジナルカリキュラムを開発しまして、このカリキュラムを活用して、小学校1年生から4年生に対する独自の英語の授業に取り組んできました。このカリキュラムは、外国の絵本を活用して英語を使う場面と結びつけて英語を学べることすとか、文化の違いを学ぶことができるという特徴を持っております。リズムに合わせた発音練習とか英語の歌なども取り入れて、英語って楽しい、英語を使ってみたいと感じることができる町田ならではの授業づくりを進めているところでございます。

私は、これまで進めてきた英語に親しむ、なれる、楽しむといった内容のこういう活動が、学年が上がるにつれて、子どもたちの学習意欲が減退するといった状況になったり、昔は中学生になって英語嫌いになったが、これからは中学生になる前に英語嫌いになるというような状況は絶対に避けたいと思っています。

そのような観点で見たときに、私は今回の7社の教科書の中では光村図書出版、それと三省堂、啓林館あたりが、子どもたちにとって、また先生にとっても使いやすいのではというふうに感じました。

特に光村図書出版の「Here We Go!」は、最初に全体のめあてが明確に示されていて、各単元の活動の内容も日本語表記のため、子どもたちにとってわかりやすい構成になっていると思います。また、早口言葉や文字遊び、英語の歌等が多く使われていて、子どもたちの興味を引く工夫がなされています。また、デジタルコンテンツが多く掲載されていて、ICT機器を使った授業においても、家庭学習においても活用度が高いものというふうに

感じました。

以上でございます。

委員の皆様からそれぞれご意見を頂戴いたしましたので、投票に入りたいと思います。

投票用紙の配付をお願いします。

(投票)

○教育総務課長 発表します。

三省堂 3 票、光村図書出版 2 票、以上です。

○教育長 ただいまの発表のとおり、投票の結果、三省堂が過半数の 3 票以上を獲得いたしましたので、2020 年度使用教科用図書、小学校「英語」は、三省堂に決定いたします。

以上で、小学校全教科についての採択結果が出ましたので、もう一度申し上げます。

国語、光村図書出版、書写、光村図書出版、社会、東京書籍、地図、帝国書院、算数、東京書籍、理科、教育出版、生活、教育出版、音楽、教育芸術社、図画工作、開隆堂出版、家庭、開隆堂出版、保健、光文書院、道徳、東京書籍、英語、三省堂、以上でございます。

以上をもちまして、第 20 号議案の審議を終了いたします。

休憩いたします。

午後 1 時 51 分休憩

---

午後 1 時 52 分再開

○教育長 再開いたします。

議案第 21 号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長 議案第 21 号「2020 年度使用教科用図書（中学校）の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条並びに同法施行令第 14 条及び第 15 条の規定により、2020 年度使用教科用図書を採択するものでございます。

なお、2020 年度に使用する中学校教科用図書の採択につきましては、2018 年度検定において新たな中学校教科用図書の申請がなかったため、前年に引き続き、別表の図書を採択するものでございます。

1 枚おめぐりください。2020 年度使用町田市立中学校教科用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○教育長 説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関しまして、何かご質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了します。

お諮りします。議案第21号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、議案第22号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長 議案第22号「2020年度使用教科用図書(特別支援学級)の採択について」、ご説明いたします。

本件は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同法施行令第14条及び第15条並びに学校教育法附則9条の規定及び町田市立小・中学校教科用図書採択要綱に基づき、2020年度使用教科用図書を採択するものでございます。

1枚おめくりください。1ページから21ページまでが2020年度小学校特別支援学級使用図書一覧でございます。そして22ページから40ページまでが2020年度中学校特別支援学級使用図書一覧でございます。

説明は以上となります。

○教育長 説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明について、何かご質問等ございましたらお願いいたします。

○八並委員 ちょっとわかりにくいとは思いますが、この特別支援の教科書について実際にどのように使われているのかということをお教えいただけませんか。

○教育センター統括指導主事 特別支援学級小学校並びに中学校の特別支援学級(知的固定学級)でございますが、それぞれ在籍する子どもの実態を踏まえた上で、児童・生徒に合った教科書を選定して使っているところでございます。

○教育長 そのほかに何かございますでしょうか。――よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

お諮りします。議案第22号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

以上で町田市教育委員会第1回臨時会を閉会いたします。

午後1時57分閉会